



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2013～2014年度 RI会長 ロン D. パートン

RIテーマ Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

クラブテーマ「初心にもどり自分とクラブを見つめ直そう」会長 山本良一

副会長 矢岸貞夫 幹事 加藤正幸

第1182回 例会 2014.5.16(金)晴

司会:石井和郎君 指揮:土屋 巧君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 山本良一君

爽やかな五月晴れの日々です、先週5月9日には三島市主催の「優良田園住宅制度の導入に係る説明会」が行われました。三島市では県の進める内陸フロントア総合特区に位置付けられた「優良田園住宅の建設促進のための基本方針」を、県内ではじめて策定しました。



この制度は、敷地面積や建ぺい率など一定の条件をクリアすれば、本来開発行為ができない市街化調整区域での宅地造成が可能になります。基本方針では、東駿河湾環状道路のインターチェンジ近くの大場、三ツ谷新田、市山新田の3地区を実施場所として、建築物の条件や自然環境への配慮など、建設計画に必要な事項を定めました。企業誘致の事業計画地に近接し、将来の食住近接が図られる見込みがあり、東駿河湾環状道路のインターチェンジに近接し、通勤対応可能な住宅整備により、流入人口の増加や人口減少対策、地域活性化への寄与が見込まれます。

人口減少は全国的な課題であり、特に静岡県は人口減少は総務省の昨年のデータによりますと6、892人が転出超過、全国で北海道につぐワースト2位だそうです。

先月、NHKニュースおはよう日本の放送は伊豆市から「女性が消える社会」いま何が、のタイトルで伊豆市内から20・30代の女性が急激に減少、この10年間で1、000人以上、3割近くが減少し市内から若い女性が減少したと報道しました、この原因は雇用の受け皿となる市内の企業が減少し、雇用の確保ができなくなり、市外に転出してしまうとのことで人口減少に頭を痛めているそうです。

人口減少は労働力にも影響します、建設業界では数年前より工事の専門的な作業を行う人材が不足、牛井のすき屋ではアルバイトがいなく店舗が休業、自動車の修理やドライバーも不足みださうです。この難問の人手不足をいかに解決するかです。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

大木拓人さん(日大国際関係学部 吹奏楽部)
宮田悠正さん(")

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	25/33	75.76%	29/33	87.88%
今回	24/33	72.73%	会員総数	33名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

遠藤君、岡君、加藤君、兼子君、小島君、鈴木君、服部君、望月君、山口(雅)君

今日の料理



幹事報告

幹事 加藤正幸君

①25周年動員リスト提出すみやかにお願いします

太田政人君

去る5月11日は「母の日」でした。私の母は現在97歳で要介護1です、病气療養後今は自宅に居りますので私は日々「老老介護」のまねごとの様なことをしております、毎日が母の日です。ちなみに、「老老介護」とは被介護者と介護者がともに65歳以上の高齢者介護のことです。日本の65歳以上の高齢者の割合は現在約25パーセント人口の4分の1といわれていますが今後年々この率は急激に増加していきます。

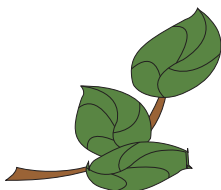
私としてはたいした介護をしているわけではないですが、介護は毎日のことで予期せぬトラブルもありストレスが鬱積してきます、このストレスをうまく発散させることが被介護者と介護者にとって何よりも肝要ではないでしょうか。私のストレス発散は「アユの友釣り」です、6月から釣りのシーズンですが、母のデイサービスの日は送り迎えを弟妹にまかせいそいそと出かけます、清流のせせらぎに足を浸し蟬の声を全身に浴びながらオトリのアユを操り野アユの掛かるのを待つ、至福の時です。本日は大アユ釣りのDVDを用意してきましたが再生機種との相性が合わず再生できませんでした。アユの友釣りを始めて今年でちょうど10年目ですが、アユ釣りを始める環境は十分ありましたのでこんなに面白いものならもう少し若い時から始めていればと思っています。釣りの中でアユの友釣りが一番面白いこの魅力に取り憑かれたら抜け出すのはなかなかできないと知人の釣り好きが言っていました、私がよく行きます西伊豆の仁科川には98歳の現役のアユ釣り師がいらっしやいます、皆さまも、生涯続けられる趣味として健康維持ボケ防止として健康寿命を延ばすためにもアユの友釣りに挑戦してみませんか、興味を持たれた方は是非ご一緒しましょう。



スマイルボックス

太田政人君：本日は卓話です。まとまりに欠けるかもしれませんが適当に聞き流して下さい。

石井司人君：早退します。



ROTARY NEWS

5月5日、国際ロータリー本部にて、ジョン・ヒューコ国際ロータリー事務総長と、キャリー・ヘスラー・ラデレット平和部隊(Peace Corps)事務局長代理が、協力合意書に署名しました。調印式にはロン・バートンRI会長や職員が出席。バートン会長はこの正式な協力合意を歓迎するとともに、両組織の奉仕への献身を称えました。

合意内容は、ロータリーと平和部隊が、フィリピン、タイ、トーゴで国際開発とボランティア奉仕を推進する上で、1年間の試験的プログラムを実施するというものです。この合意により、ロータリークラブ会員と平和部隊ボランティアが、互いのリソースと知識を共有し、これら3カ国での開発プロジェクトでより大きな成果をもたらせるようになります。

具体的には、地域奉仕プロジェクトや、地域住民への教育支援などで協力し、さらに、平和部隊パートナーシップ・プログラムを通じて、ロータリークラブが小額の補助金を提供することができます。

代々、ロータリー会員の家庭に育ったヘスラー・ラデレット事務局長代理は、「国内外でボランティア精神を高めていくために、ロータリーとの活動で協力できることを嬉しく思う」と述べました。また、ヒューコ事務局長は、貧困、識字、疾病、きれいな水と衛生の不足といった、暴力や紛争の根源となる問題に対応して、人びとの生活を向上させることが両団体の共通した目的であること強調しました。

今回の合意で大きな役割を果たしたのは、米国デンバー地域の元平和部隊ボランティアでロータリー会員のスー・フォックスさん、バレリー・ホプキンスさん、ステーブ・ワーナーさんです。調印式にも出席したこの3名は、第5450地区ロータリー・平和部隊協力委員会のメンバーで、2010年以来、両組織の正式合意を後押ししてきました。

ロータリー職員で元平和部隊ボランティアのジェシー・デービスさんは、パナマでの平和部隊の活動に参加していたときは、常に現地のロータリークラブと協力しており、ロータリーが「活動の大切なパートナー」だったと振り返ります。

今回の合意は、両組織の協力を正式なものとしただけでなく、すでに進められている協同プロジェクトでも、さらに協力関係を強化するきっかけとなります。

トーゴでは、平和部隊ボランティアのダニエル・ブラウンさんとデイビット・グーズさんが、ロータリーや米国のほかの団体と協力し、恵まれない子どもたちに5,000個のサッカーボールを寄贈するという活動を実施しています。さらに、サッカーを通じて、マラリア予防に関する知識を広めるといったプロジェクトにも取り組んでいます。